

神奈川県藤沢市にて、マイクロコンピュータを使った製品や、近年では特にパワーエレクトロニクス製品（非常用電源装置など）の開発・製造を行っている。顧客企業のニーズにあわせ、開発から製造まで一貫して手掛ける。1979年創業。



代表取締役 鈴木 基伸氏



クズミ電子工業株式会社

高度外国人材が活躍する分野

将来の
海外進出の準備

既存の
ビジネスの改善

新たな
ビジネス機会の
獲得

人材採用のグローバル化を通じて 海外展開をより身近な選択肢に



ベトナム出身

トアン・ド・ヴァン氏



ビジネスよりも先に取り組んだ人材採用のグローバル化

クズミ電子工業は、半導体製造装置向けを主とした各種コントローラを設計から製造まで一貫して受託しています。近年では、さらに非常用電源装置などのパワーエレクトロニクス製品にも力を入れており、ビジネスの拡大を図っているところです。

好景気を受けて取引先からの注文も増える中、同社が抱えていた悩みはビジネスの担い手となる人材が確保できないことでした。クズミ電子工業は、理系で電気系を専攻する学部卒・修士卒の学生を新卒で採用してきましたが、景気が良くなったことで、中小企業が採用市場で競り勝つことが難しくなってきました。従来、そうした景況の間は「取れるようになるまで採用は控える」という姿勢でしたが、仕事が増えてくる中で、必ずしも待ちの姿勢に留まるのではなく、人材を確保できる新たな選択肢を探るべきではないか、と考えるようになりました。

情報を収集した鈴木社長は「国内事業の調子は良いが、これからの長期的な展望を考えれば、国内だけでなく海外を考えていく必要がある。それは、ビジネスの市場獲得だけでなく人材獲得でも同じだ」と判断、高度外国人材の採用の検討を始めました。

具体的に採用手段を検討する中で、神奈川県が2017年7月にベトナム大使館にて実施した交流イベントに参加、就職希望者と出会うことができました。何人かの希望者の中から、会社見学と選考を経て、ハノイ工科大学で修士を修了したトアンさんに内定を出し、採用することに決定しました。留学生の就職に際しては在留資格を変更する手続きが必要になりますが、鈴木社長自ら新輸出大国エキスパートのアドバイスを受け、準備を進めることで、問題なく申請手続きを進め、トアンさんは無事2018年4月にクズミ電子工業へ入社しました。

国内事業でも海外展開でも活躍してくれる存在に

来日前のトアンさんはベトナムで工学部を卒業した後、現地日系企業へ就職し働いていました。働いている中で、「より高度な知識や技術を身につけ、エンジニアとして学んだことを活かせる仕事をしたい」と考えて、大学へ戻り修士号を取得。その後来日し、当初は日本の大学で博士号を取得することを目標に、日本語学校で日本語を勉強していました。しかし、日本語学校に通う中で、「自分の求めている仕事は、必ずしも博士号を取得しなくてもできるのではないかと感じ、日本で就職活動を始めたところ、クズミ電子工業と出会い、入社を決めました。

クズミ電子工業にとって、ベトナム人材の採用は初めての経験で、当初、会社の中の雰囲気は少しそわそわしていたと鈴木社長は語ります。しかし、トアンさんに大学で学んできた知識という下地があったことと、同社の丁寧な指導体制のおかげで、トアンさんは入社後からすぐに実力を発揮、文化の壁を感じさせることなく今では戦力として日々仕事をこなしています。

もともとトアンさんの採用は必ずしも「海外展開のため」を目的にしたものではありませんでしたが、同社の海外進出計画にとってもプラスになりました。人材採用計画とは別に、クズミ電子

工業では海外市場獲得の可能性を検討しており、その最有力候補がベトナムだったのです。

将来的な海外ビジネスの展開先として、東南アジアを中心に何カ国かを視察する中で、ベトナムが最有力候補として挙がっていました。2018年7月、ベトナムでの展示会への出展に当たって、鈴木社長はトアンさんを出張に同行させました。当初は出張アテンドを期待していましたが、トアンさんはアテンドに留まらず、展示会場でもベトナム語で営業を行うなどの積極性を発揮しました。鈴木社長にとって、ベトナムはこれまでも出張で足を運んだ経験はあった国でしたが、今回トアンさんが同行したことによって、ベトナムでのビジネスから街中の風景まで、これまで見えなかったものや今まで気づけなかったことに気づくきっかけになりました。

トアンさんの活躍は、エンジニアとしてだけではなく、海外ビジネスでぶつかる“文化の壁”のリスクを低くし、将来の可能性を拓けることにも貢献しています。



トアンさんが活躍した展示会にて

高度外国人材のおかげで海外ビジネスの展望が具体的に

鈴木社長は「海外に拠点を作るのであれば、日本と同じように、設計から製造まですべて行えるような現地拠点をつくりたい」と語ります。そのためには展開する国・地域が日本と遜色ない段階まで発展していて、かつ、現地でもそれだけのニーズが生まれている必要があります。ベトナムの現在のビジネス環境を考えたとき、それは10年程度先になるのではないかと鈴木社長は睨んでいます。その戦略の実現には、10年後に進出する、しないのどちらにも舵を切れる「布石」が必要になります。

国内の好景気を受けてビジネスを拡大しつつ、しかし将来の海外展開を具体的に検討する上で、トアンさんはベトナムへの可能性の扉を開いてくれる存在でした。

発展著しいベトナムですが、トアンさんのようなエンジニアがその実力を存分に発揮できるような仕事は限られています。「人材不足の日本で苦勞をして日本人を探すよりも、将来のことを思えば、現地まで赴いてでも彼のような優秀な人材にアプローチ

した方が合理的」と鈴木社長は語ります。

同社の将来的なベトナム進出計画は、「日本だけでなくベトナムでも働くことができる」という点でも、ベトナム人学生にとって魅力的に映ります。今後、クズミ電子工業はベトナムを中心に、電気系の優秀な人材を安定的に確保していくことを検討しています。同社では、トアンさんのような高度外国人材は、エンジニアとしてだけでなく、将来の幹部候補生として日本人と同じように登用を行っていく考えです。特に将来ベトナムへの海外展開を行う際には中核を担うと期待しています。

高度外国人材の採用は、直近の国内事業を支えるだけでなく、将来の海外展開の可能性に繋がっています。トアンさんの採用をきっかけに、クズミ電子工業はビジネスだけでなく経営全体の国際化へ一歩を踏み出しました。



ホーチミン出張にてアテンド

Message

丁寧な指導をしっかりと受け止め、エンジニアとして成長したい



トアン・ド・ヴァン氏

昔から日本には最新の技術がある、というイメージがあり、大学の学部生のころから日本語を勉強していました。卒業後にベトナムで就職した日系企業では真空技術の稼働の管理を行っていましたが、よりエンジニアとしての学びを深めてものづくりに携わりたいと考え、大学院に入学することになりました。その後、ベトナムで修士号を取得したものの、ベトナムで就職活動をしなくても学んだ知識を活かせる仕事は少なく、また、就職に当たっては実務経験も求められます。日本でさらに勉強を深め、エンジニアとしてのキャリアを積みたいと考えて来日しました。

クズミ電子工業に就職して驚いたことは、新人への教育体制がしっかりしていることです。クズミ電子工業

での仕事はほとんど経験したことのない仕事ばかりですが、基板の設計やプログラミングなど、先輩社員が丁寧にOJTで教えてくれるので、苦勞することなく取り組むことができます。このような職場はベトナムでは見つけることができなかっただろうと思います。大学で学んだ理論と現場での応用の違いを知る毎日ですが、ひとつひとつ教えてもらう中で、エンジニアとして成長している、と実感しています。

エンジニアとして勉強することはまだまだ多く、マネジメントを担う自分は想像できないですが、まずは今手掛けているバッテリー関係の仕事をしっかりとして勉強して取り組んでいきたいと考えています。

日本の生活には慣れて不自由はないですが、将来、クズミ電子工業がベトナムに進出する、という時には、日本だけでなくベトナムでも活躍したいと思います。

ベトナム出身。ハノイ工科大学工学部修士課程卒。2018年4月、クズミ電子工業株式会社入社。